

第71回 定時株主総会

©Copyright Sangetsu Corporation

安田：本日は、ご多用中のところ、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
私は社長の安田正介でございます。定款第 15 条の定めに従いまして、本総会の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。
スムーズな運営を心掛けたいと存じますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。
それでは、ただ今から株式会社サンゲツ第 71 回定時株主総会を開会いたします。

監査報告

(招集ご通知 p.53～58)

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

それでは、報告事項及び議案の審議に先立ちまして、監査等委員会の委員長、羽鳥正稔より監査等委員会の監査報告をご報告申し上げます。

羽鳥：監査等委員会の委員長を務めております羽鳥でございます。それでは、監査の結果についてご報告申し上げます。

監査等委員会は第 71 期事業年度における取締役の職務執行全般について監査を行ってまいりました。

監査の結果につきましては、お手元の招集ご通知 57 ページから 58 ページの監査等委員会の監査報告書の謄本のとおりでございます。

事業報告及びその附属明細書は、法令・定款に適合いたしており、会社の状況を正しく示していると認められ、取締役の職務の執行に関する不正の行為、または法令もしくは定款に反する重要な事実はありませんでした。

あわせて、内部統制システムに関する取締役の職務執行についても、指摘すべき事項はありませんでした。

連結計算書類および計算書類等については、お手元の招集ご通知 53 ページから 56 ページの会計監査人の監査報告書の謄本のとおり報告及び説明をうけ、監査を行いました。その結果、PwC あらた有限責任監査法人の監査の方法と結果は相当であり、指摘すべき事項はありません。

次に、監査等委員会は、監査等委員以外の取締役の選任につきまして、監査等委員である社外取締役全員が参加している指名報酬委員会における検討を通して、招集ご通知の 8 ページから 10 ページ記載の 2 名の候補者を取締役に選任することが、当社の中長期的な企業価値向上を託すにふさわしく適任と判断しております。なお、本総会に提出されております議案及び書類に関しましても、法令及び定款に適合しており、指摘すべき事実はありませんでした。

以上ご報告申し上げます。

■ 報告事項

- 1.第71期 事業報告の内容、連結計算書類の内容の件
(招集ご通知19ページ～50ページ)
- 2.第71期 計算書類の内容報告の件
(招集ご通知51ページ～52ページ)

■ 2023年3月期決算概況

■ 長期ビジョン【DESIGN 2030】

新中期経営計画（2023-2025）【BX2025】

及び決議事項4議案のご説明

安田： それでは、次に本総会の報告事項につきご説明をさせていただきます。
お手許の「招集ご通知」19 ページから 52 ページに記載のとおりでございますが、第
71 期事業報告、及び連結計算書類などの主な内容につきまして、2023 年 3 月期決
算概況として、私からご説明を申し上げます。

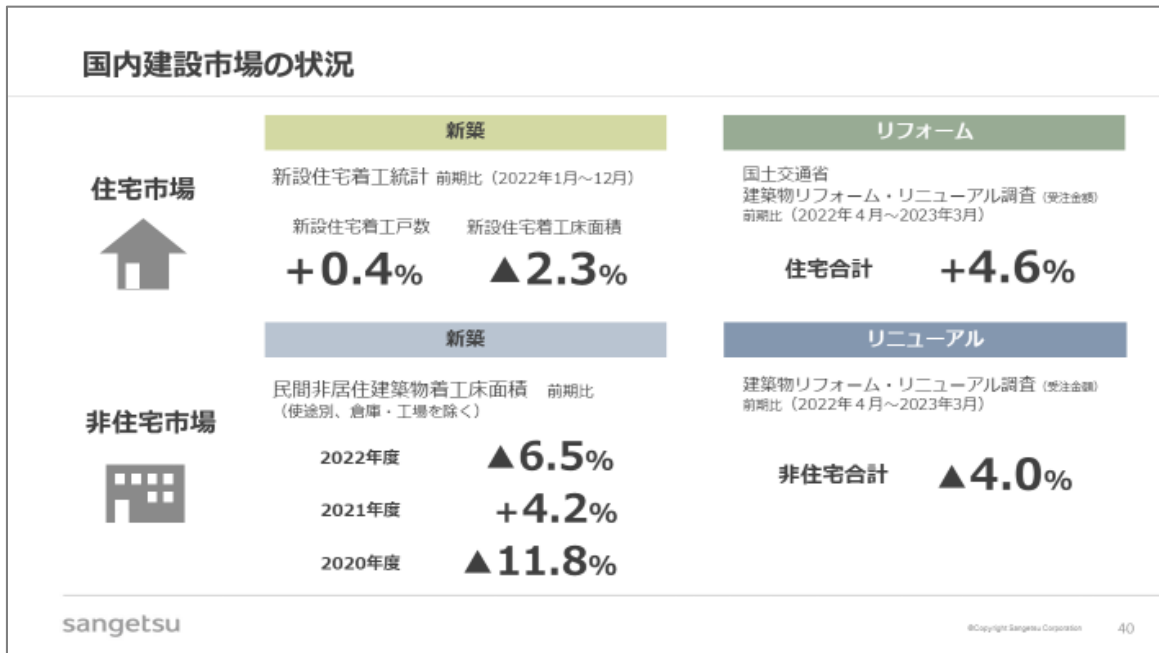
2023年3月期 決算概況

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

39

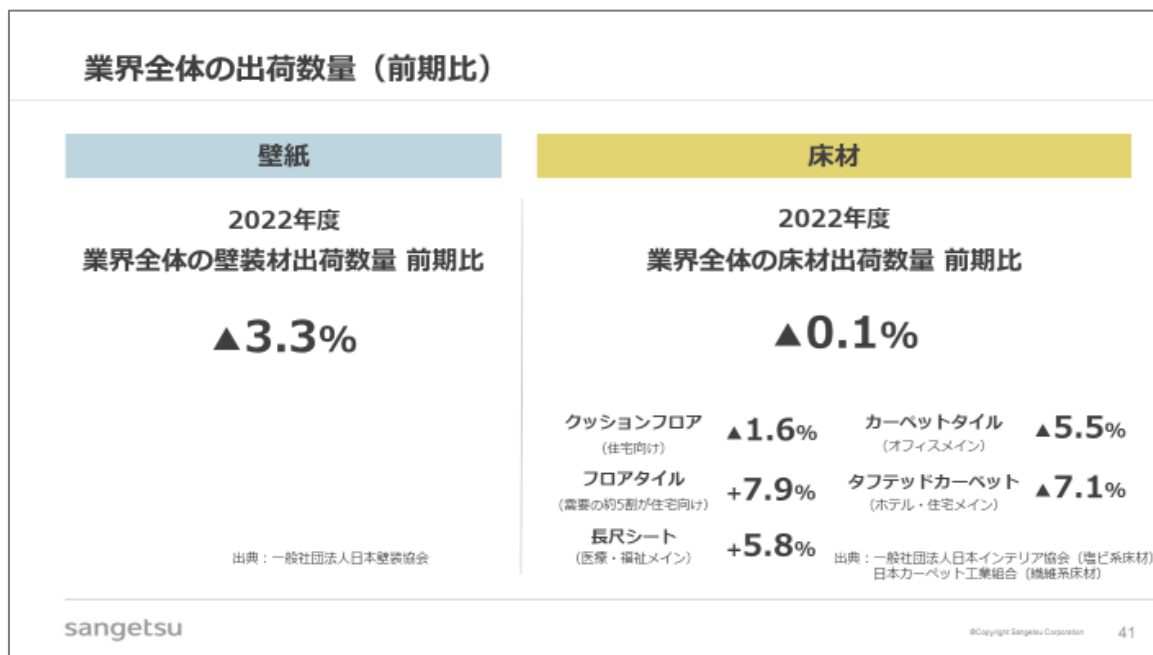
まず、最初に 2022 年度の決算概況をご説明申し上げます。



昨年度は世界経済・日本経済共に緩やかな回復を見せる中、日本の建設市場は引き続いて低迷し、量的には厳しい状況が継続いたしました。

新築住宅の着工戸数は前年度比プラスであったものの、着工床面積はここ数年減少傾向となって居り、マイナス成長となりました。

住宅リフォームは年度後半に回復しましたが、一方非住宅市場では新築着工床面積もリニューアルもマイナスとなりました。特に着工から時間差の大きい大型物件の内装工事は2020年度の大規模な着工の落ち込みが影響し停滞状況が継続いたしました。



商品面でも業界全体の出荷数量は商品によって差があるものの、前年度比マイナスとなる商品が多く見られました。

決算概況 連結損益計算書

	2022年3月期	2023年3月期 (億円)	
	実績 (A)	実績 (B)	前期比 (B-A)
売上高	1,494.8	1,760.2	+ 265.4
売上総利益 (利益率)	399.6 (26.7%)	563.7 (32.0%)	+ 164.1
営業利益 (利益率)	79.5 (5.3%)	202.8 (11.5%)	+ 123.2
経常利益	82.0	206.9	+ 124.8
親会社株主に帰属する当期純利益	2.7	140.0	+ 137.2

増収・増益 売上高・各利益：全て過去最高を更新

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

42

このような市場環境において、当社の 2022 年度連結決算は売上高 1,760 億 2 千万円、売上総利益 563 億 7 千万円、営業利益 202 億 8 千万円、経常利益 206 億 9 千万円、当期純利益 140 億円となり、いずれも過去最高となりました。

決算概況 効率性・収益性指標

効率性・収益性

	2021年度	2022年度
・ ROE	: 0.3%	15.3%
・ ROIC	: 7.1%	16.5%
・ 売上高営業利益率	: 5.3%	11.5%
・ CCC	: 76.5日	77.1日

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

43

また、ROE は 15.3%、ROIC16.5%、売上高営業利益率 11.5%と効率性を示す指標も大きく改善しているのに対し、キャッシュコンバージョンサイクルは 77.1 日と前年度に比べ 0.6 日の悪化となりました。

決算概況 セグメント別売上高・営業利益

事業セグメント		2022年3月期	2023年3月期 (億円)
		実績	実績
インテリアセグメント	売上高	1,230.4	1,419.4
	営業利益	90.9	205.0
エクステリアセグメント	売上高	58.2	62.9
	営業利益	5.4	4.5
海外セグメント	売上高	159.3	216.7
	営業利益	▲18.2	▲10.6
スペースクリエーションセグメント	売上高	65.7	77.4
	営業利益	1.3	3.9
セグメント間取引調整(売上高)		▲18.9	▲16.3
セグメント間取引調整(営業利益)		0.0	0.0
連結	売上高	1,494.8	1,760.2
	営業利益	79.5	202.8

sangetsu

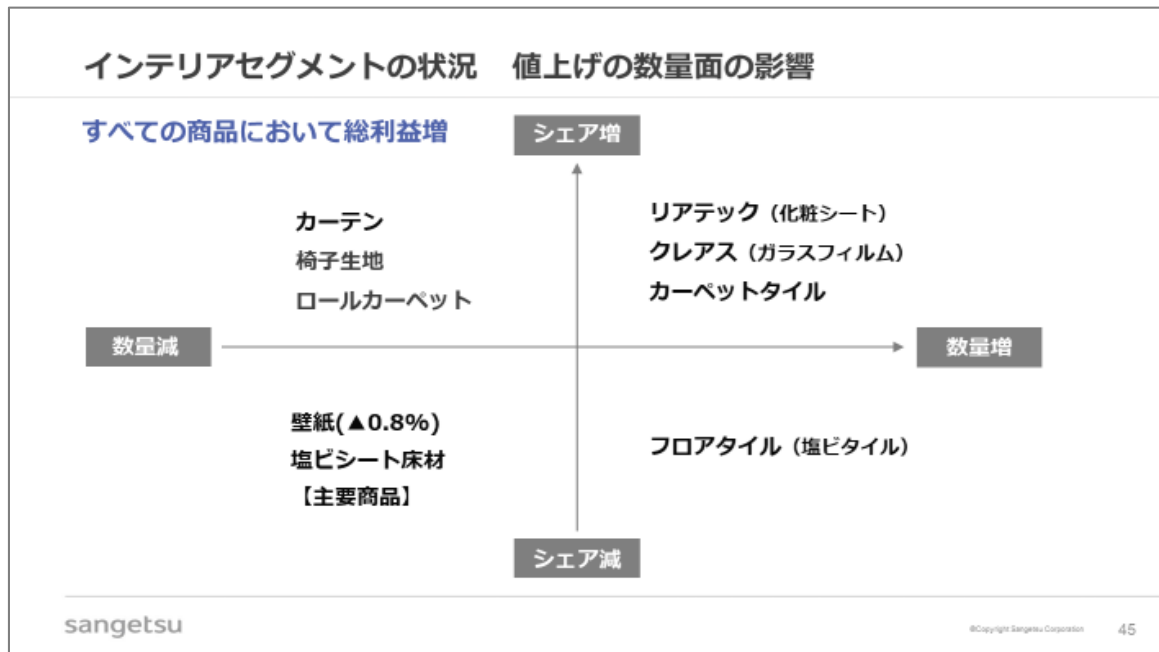
©Copyright Sangetsu Corporation

44

このような昨年度決算結果の内、特に大きな影響を与えたインテリアセグメントと海外セグメントに関してご説明したいと思います。

主にサンゲツ単体が国内市場において壁紙、床材等を事業とするインテリアセグメントの営業利益は前年比 114 億円増の 205 億円となり、昨年度の収益拡大の最大の要因となりました。

このような大幅な収益増の直接的な背景は 2021 年 9 月以来、3 回に亘って実施した値上げにあります。これらの値上げに関しては IR の場で多数のアナリスト等の皆さまから、値上げによる数量、シェアへの影響は如何なのか、また、何故、短期間に、このような 3 回にわたる値上げが実行出来たのかについて質問を受けるケースが多々あり、この 2 点に関してご説明したいと思います。

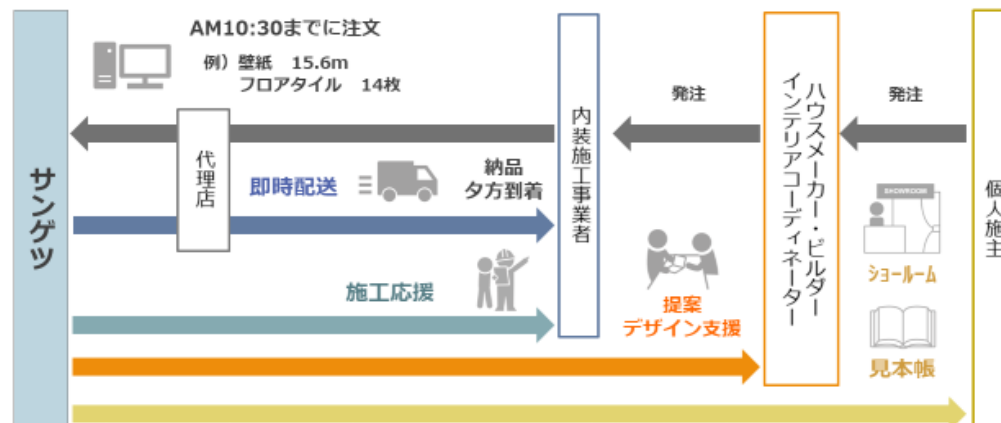


まず一点目の値上げによる数量、シェアへの影響に関してですが、結果はこの画面のとおりとなります。

インテリアセグメントの主要な商品である壁紙と塩ビシート床材に関しましては、この図の左下に表しておりますとおり、数量・シェア共に減少となりました。壁紙では50%台前半のシェアを他社の価格攻勢により0.8%程度減少させることとなりましたが、健全な範囲内での減少と考えております。カーテン等の商品に関しては、シェアは増加したものの市場全体が縮小した中で数量は減少して居り、一方、数量は増加したもののシェア減となった塩ビタイルと言ったものも有りますが、値上げによる収益の改善、向上の中でいずれも許容範囲内の事象であると認識しております。一方で、二点目である、何故このような値上げが可能となったかについて、改めてご説明申し上げます。

サンゲツの強み 建設業界を支えるサービス機能

それぞれの顧客に応じたサービス提供



sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

46

そのための資料として画面をご覧ください。

これは当社のメイン市場である住宅市場のケースです。

当社はインテリア商社と呼ばれることがあり、単に壁紙などの商品、モノを販売している会社と思われがちですが、実際にはさまざまな機能、サービスを提供し、その対価を商品、モノを通じて回収する、機能サービスプロバイダーであります。

2020 年以來、これをスペースクリエーション企業と呼んでおりますが、当社は注文を 10 cm 単位、1 枚単位で受けて居り、午前 10 時半迄に代理店より受けた注文はほとんどのケースにおいて、夕方までにお客さまである内装施工業者の手元にお届けします。

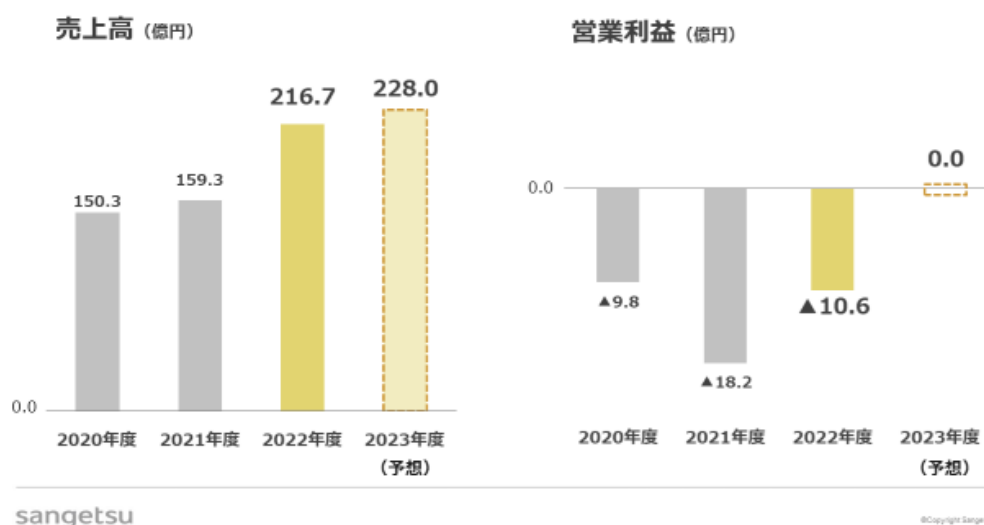
また、多忙期においてはお客さまの内装施工工事に關し施工職人さんを手配してお手伝いをする、また、施工工事の注文主であるビルダー、ハウスメーカーに対してはさまざまな内装提案をすると同時に、施主である個人の皆さまには当社ショールームをご利用いただく、ないしは見本帳からお選びいただいております。

これらの機能、サービスは代替が容易ではなく、他社からの低価格攻勢に対し耐性の高いものとなっております。

当社は 2014 年の新体制スタート以來、さまざまな投資、費用の支出によってこれらの機能・サービスの高度化に努めて参りました。

新体制スタート当初は費用拡大の先行により営業利益の縮小を招き、かつ、2020 年度、2021 年度の 2 ヶ年は新型コロナウイルス感染症拡大による市場の急激な縮小により厳しい収益結果となりました。しかし昨年度は市場が安定する中で値上げをする事により、過去からの施策効果が結実したものと考えております。

海外セグメントの状況



続いて、海外セグメントであります。海外セグメントの営業利益は一昨年度比7億6千万円の改善となりました。

しかし、依然セグメントとしては10億6千万円と多額の損失計上となっております。この内、一昨年度、一時的費用を含め最大の損失を計上した北米 Koroseal 社に関しては2022年度の損益は大きく改善をして居り、これは市場の回復に加え、不採算商品からの撤退、自社製造壁紙への注力等の効果が出たものと考えております。今年度に関しては、中国・香港市場の収益は改善するものの、赤字は継続し、北米、東南アジア市場は黒字に転じると予想して居り、海外セグメントとしては営業利益ゼロを予想値としております。

長期ビジョン【DESIGN 2030】の見直し
新中期経営計画【BX 2025】
(決議事項のご説明)

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation 48

続きまして、長期ビジョンの見直し、及び新中期経営計画、さらに本日の決議事項 4 項目についてご説明申し上げます。

2022年度実績と前中期経営計画目標および長期ビジョン目標

	2022年度 実績	【D.C. 2022】 目標	【DESIGN 2030】 目標 (2029年度)
売上高	1,760.2億円	1,620億円	2,120億円 ※
営業利益	202.8億円	120億円	185億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	140.0億円	85億円	

※2020年5月発表時点での目標値2,250億円を、収益認識基準適用後で算定

sangetsu

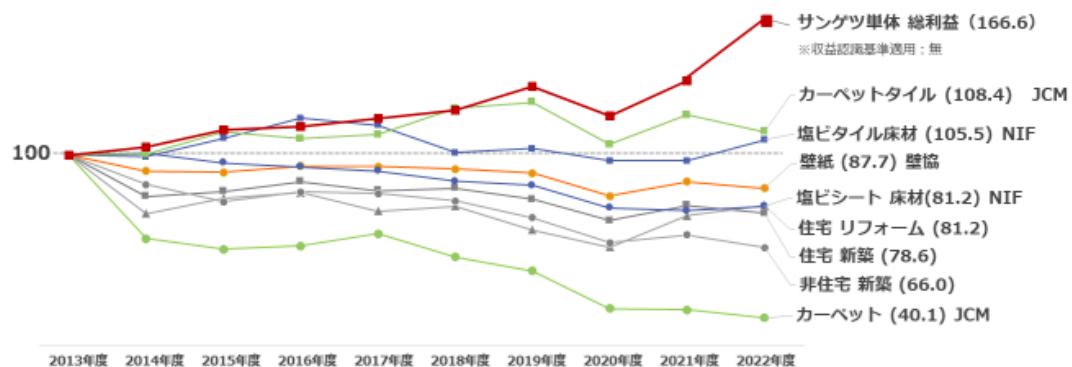
©Copyright Sangetsu Corporation

49

ここで改めて昨年度の実績と前中経の目標及び、長期ビジョンで定めた 2029 年度の目標をお示しておりますが、ご覧のとおり、昨年度実績は前中経の目標のみならず、長期ビジョン 2030 で定める営業利益目標をも上回るものとなりました。この結果に基づき、この度、新中期経営計画を策定するに当たり、改めて当社の長期での成長戦略の見直しを行いました。

日本市場の需要動向

建設関連着工統計と商品別業界出荷数量の推移（2013年度を100とした場合の指数）



sangetsu

出典 国土交通省（建築着工統計、建築物リフォーム・リニューアル調査）

©Copyright Sangetsu Corporation

50

この見直しの中心となったのは当社の主要収益源である日本の内装材料市場の数量面での実績ならびに今後の見通しです。

このグラフは当社が新体制となった前年の2013年度を基準年100として、住宅・非住宅の新築、リニューアル市場の動き、それらの工事で使われる主要内装材料の日本市場での出荷数量の推移を示したものであります。

灰色の折れ線グラフが非住宅の新築、その上が住宅の新築、さらにその上が住宅リフォームの推移を示しています。

さらに青の折れ線グラフは塩ビシート床材、そしてその上のオレンジは壁紙の出荷量であります。

その上の青は塩ビタイル床材、その上がカーペットタイルの出荷量となります。一番下の緑の折れ線グラフはロールカーペットの出荷量の推移です。

一覧すると御理解頂けますとおり、日本の建築市場は2013年度以来、住宅、非住宅も、新築もリニューアルも、いずれも停滞ないし減少しており、それらに合わせて内装材料の出荷数量は商品により違いはあるものの、全般的には停滞ないし減少していると理解すべきであると考えています。

当社はこのような市場環境の下で事業基盤の強化を進め、収益の向上を図って来た訳であります。その結果をサンゲツ単体の総利益の推移として先程のグラフに示すと、このようなものとなります。

すなわち、厳しい市場環境下で新体制以来採って来た収益向上の施策は奏効したと言えると思いますが、次に来る質問は当然、“日本市場で従来の施策を続けるだけで、10年、20年と言う長期的・継続的な成長は可能か？”と言うことになります。結論として申しあげれば、これはやはり困難だと言わざるを得ず、今回改めて、中期経営計画を策定するに当たり、長期的な観点から事業のあり方、商品、分野、地域等に関し集中的に見直しを行いました。

更なる成長のための長期的な戦略

ソリューション提供力の強化
(空間デザイン、材料提供、物流・配送、施工機能)

sangetsu

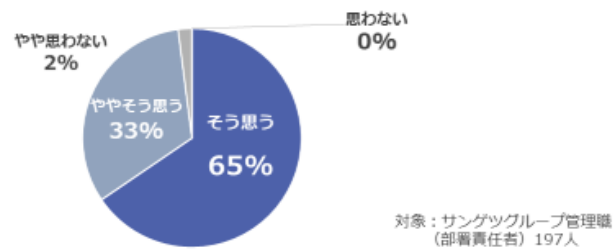
©Copyright Sangetsu Corporation

51

第一には事業そのものです。当社の基本戦略は空間創造、スペースクリエーションに係るさまざまな機能、サービスの提供、すなわちソリューション提供によりその対価をさまざまな形で回収する、と言うものです。しかし、このスペースクリエーションに係るソリューション提供と言うビジネスモデルは有効であるのか、発展性、成長性はあるのかと言う点の議論、検討を行いました。

スペースクリエーション事業の有効性

Q. スペースクリエーション事業モデルは、各自の仕事を進めるうえで有効だと思うか



多くの管理職がスペースクリエーション事業の有効性を実感

↓
更なる明確化・強化の必要性

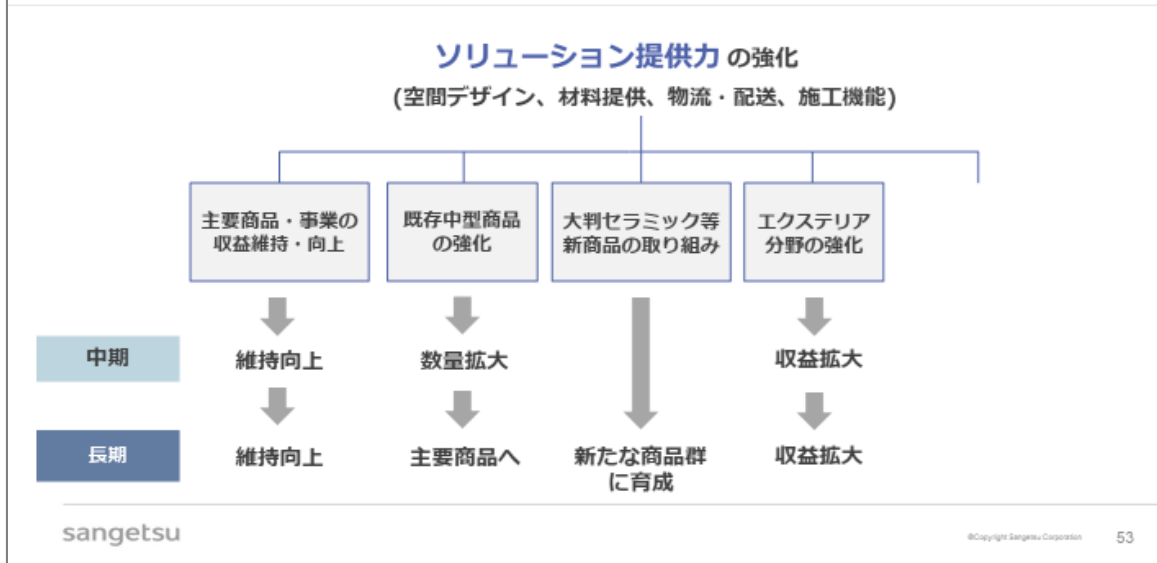
sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

52

この点に関しては社外の声、反応、そして社内の意見も非常に肯定的であります。このスライドはサンゲツグループの管理職・197 人に「スペースクリエーション事業モデルは各自の仕事を進める上で有効だと思うか」との質問に対する答えですが、「思う」が 65%を占め、「やや思う」を含めるとほぼ全員が肯定しています。この戦略をさらに徹底して推進して参ります。

更なる成長のための長期的な戦略



一方、スペースクリエーションに係るソリューション提供に対する対価の回収を如何に行うかは大きな課題である訳ですが、材料の販売を通じての対価の回収はその効率性から言っても非常に重要であると位置付けています。その中で当社が強いポジションを持つ主要商品の壁紙、塩ビ系床材の収益力を維持し、さらに向上して行くことは重要であるものの、これに加えて、既存商品の中でも依然シェアの低い中型商品の拡大を図る必要があると考えております。

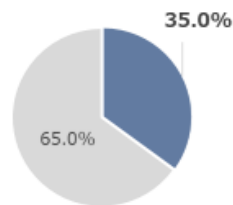
また、近年、力を入れている大判セラミックタイル等の新商品の強化に徹底して取り組んで参ります。

エクステリア分野の強化

エクステリア市場 全国展開の推進によるシェア拡大余地

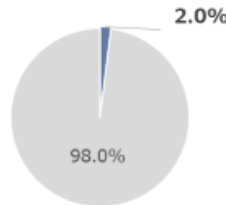
2022年度 エクステリア市場規模とサングリーンのシェア

【中部地区】



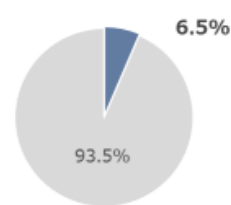
市場規模
約400億円

【関東地区】



市場規模
約750億円

【全国】



市場規模
約2,485億円

sangetsu

出典：日本エクステリア工業会

©Copyright Sangetsu Corporation

54

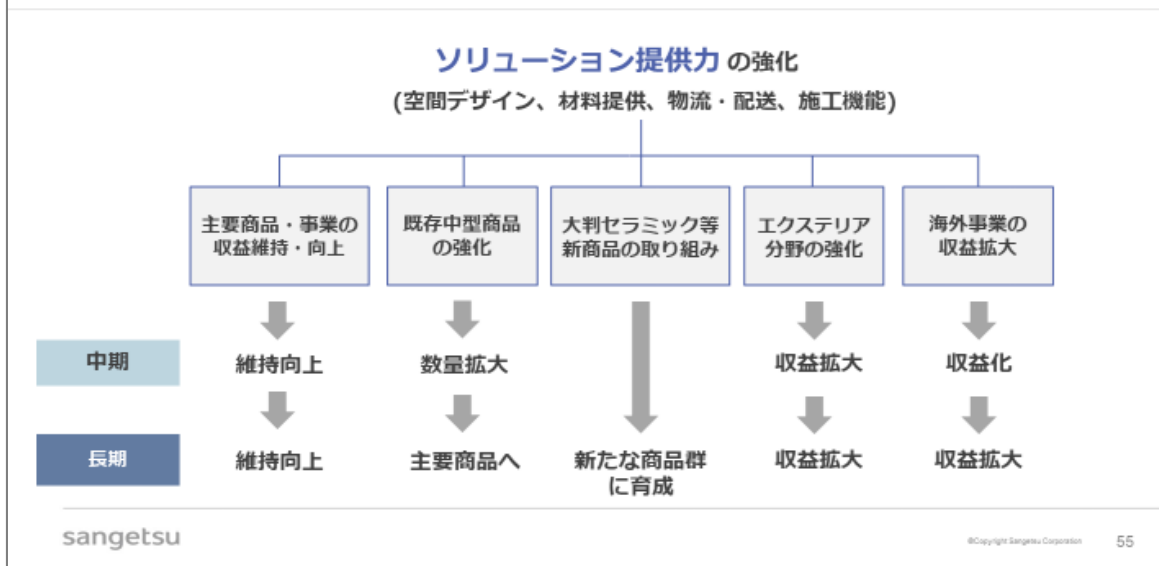
一方、分野としては主力のインテリアに加えてエクステリア分野での事業拡大がKeyになると認識しています。

当社のエクステリア事業は金額的にもシェア的にも限定されて居り、地域的にも中部地域が中心となっています。

スペースクリエーション提案においてインテリアとエクステリア両面での提案を行う機会が増加し、顧客の強い支持を受けて居り、エクステリア事業の拡大はグループ全体の成長につながる？ものと位置付けています。

商品的にもエクステリア関連の独自商品を保有・提案する事も重要であり、これを実行して参ります。

更なる成長のための長期的な戦略



そしてやはり、海外市場であります。

海外市場は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市場は日本以上に大きく縮小しましたが、北米、東南アジア市場は今後コロナからの回復を経て成長して行くものと考えています。

海外事業の収益拡大

日本市場と北米市場における壁紙事業の相違

※当社推定値

	日本市場	北米市場
市場規模（数量）	約630百万㎡	約24百万㎡
販売単価	約160~350円/㎡	約1,000~3,000円/㎡
市場規模（金額）	約1,150億円	約370億円
当社グループシェア	約50%強	約17%

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

56

このスライドは北米市場の状況をご説明するものですが、市場の数量規模は日本に比し小さいものの、単価が大きく上回るため、市場の金額は日本の1／3程度あり、また、依然、当社の市場シェアが低く、事業拡大をするチャンスは大きなものがあります。

また、中国・香港市場の先行きには不透明感がありますが、何と云っても市場が巨大であり、日本品を評価する需要も存在する事からも事業性は高いと考えております。

空間軸 × 時間軸

スペースクリエーション



空間の提供

スペースオペレーション



空間を利用した管理サービスの提供
空間のサブスクリプション

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

57

さらに長期的な成長を考えた場合にはスペースクリエーション企業を超えた企業像の模索も行っていきたいと考えています。スペースクリエーション提案とは良いスペースを考える事だけではなく、スペースがどのように使われるのか？人々がそのスペースでどのように過ごすのか、どのように安らぎ、歓びを得るのか、そのためのスペースをデザインし、提案し、提供する事にあり、その意味では長期の時間軸で考える仕事になっています。すなわち、事業的にも良いスペースを提供するという空間軸で終了するのではなく、スペースが完成した以降の時間軸においても事業として関与して行く事を目指していきたいと考えて居り、これをスペースオペレーション事業とし、今後の事業の可能性の検討を進めて参ります。

長期ビジョン 定量目標（2029年度）

	従来	見直し後
連結売上高	2,120億円 [※]	2,500億円
連結営業利益	185億円	270億円

※2020年5月発表時点での目標値2,250億円を、収益認識基準適用後で算定

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

58

以上の見直しにより、2020 年 5 月に発表しております、長期ビジョンの達成のためのアプローチの文言を一部変更すると同時に、長期ビジョンの定量目標の変更も行いました。

すなわち、最終年度であります 2029 年度の定量目標として、従来の売上高 2,120 億円を 2,500 億円に、営業利益 185 億円を 270 億円に修正し、この達成を目指して参ります。

中期経営計画【 BX 2025 】基本方針

中期経営計画(2023-2025) 【 BX 2025 】

— 次の飛躍に備える3年間 —

基本方針

スペースクリエーションの価値を高めるソリューション力を強化・拡充し、強固な収益力と成長力を持つスペースクリエーション企業へと転換、主要商品・市場の事業拡張に加え、商品の拡充、エクステリア事業・海外事業の拡大を実行する。

また、さらなる長期的成長を可能ならしめる事業を展開するべく、スペースオペレーション事業の可能性を検討する。

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

59

以上のとおりの長期的な成長ビジョンに基づいて策定したのが、新しい中期経営計画 BX2025 で、BX とは Business Transformation、事業転換を意味し、中経期間である 2023, 24, 25 年度を「次の飛躍に備える 3 年間」と位置付けております。

基本方針は、スペースクリエーションの価値を高めるソリューション力を強化・拡充し、強固な収益力と成長力を持つスペースクリエーション企業へと転換、主要商品・市場の事業拡張に加え、商品の拡充、エクステリア事業・海外事業の拡大を実行する。

また、さらなる長期的成長を可能ならしめる事業を展開するべく、スペースオペレーション事業の可能性を検討する。

としております。

施策

1 人的資本の拡大・高度化・活躍支援

2 デジタル資本の蓄積・分析・活用

3 ソリューション提供力の強化

4 エクステリア事業と海外事業

5 社会価値の向上

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

60

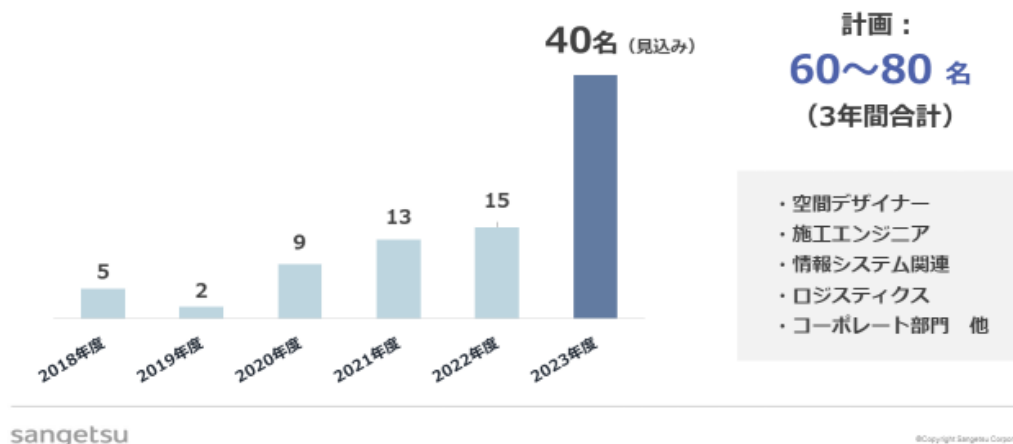
具体的な施策としては、この画面にありますとおり、

1. 人的資本の拡大・高度化・活躍支援
2. デジタル資本の蓄積・分析・活用
3. ソリューション提供力の強化
4. エクステリア事業と海外事業
5. 社会価値の向上

となります。

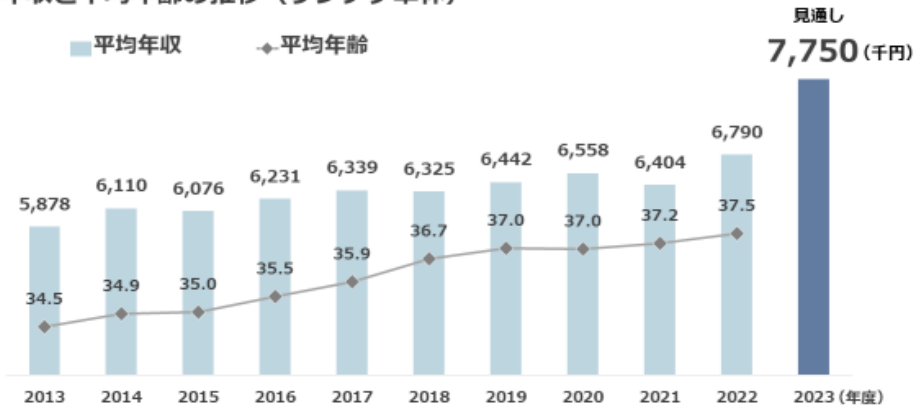
この内の施策の1. 人的資本の拡大・高度化・活躍支援 ですが、2以下の施策の実行、実現のためにも、この施策1の着実、確実な実行が最重要であると考えています。

キャリア採用人数の推移（サンゲツ単体）



このための施策の一つとして、キャリア採用の拡大を進めておりますが、今年度のキャリア採用の見込みは40名、そして3年間合計60～80名を目標として進めて参ります。

平均年収と平均年齢の推移（サンゲツ単体）



sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

62

また、賃上げの要請は社会的に高まっており、当社としても、優秀人材の確保、社員の活躍支援のために、過去から処遇・待遇の改善を進めていますが、今後も重要な課題として進めて参ります。

定量目標 (KPI) 経済価値

2025年度 目標

・ 連結売上高	1,950億円
・ 連結営業利益	205億円
・ 連結当期純利益	145億円
・ ROE	14.0%
・ ROIC	14.0%
・ CCC	65日

2023年3月末現在、株主資本コストを5.61 %、WACCを5.31 %と認識

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

63

以上の基本方針、施策により、今中計最終年度に

- ・ 連結売上高 1,950 億円
- ・ 連結営業利益 205 億円
- ・ 連結当期純利益 145 億円
- ・ ROE 14.0%
- ・ ROIC 14.0%
- ・ CCC 65 日

を達成目標といたします。

定量目標（KPI） 社会価値

2025年度 目標

1. 地球環境

事業活動(Scope 1 & 2)における環境負荷の低減 / GHG排出量削減目標

	2025年度	2029年度 長期ビジョン【DESIGN 2030】
連結	28% 削減 (2021年度比)	55% 削減 (2021年度比)
単体	60% 削減 (2018年度比)	カーボンニュートラル

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

64

また、社会価値の向上は重要な目標であり、地球環境の負荷低減として、長期ビジョンの GHG 排出削減目標に沿って、連結では 2029 年度の 55%削減を目指し、2025 年度に 28%削減、単体では 2029 年度カーボンニュートラルを目指し、2025 年度に 60%削減を実行して参ります。

2025年度 目標

2. 人的資本

(1) 社員の健康と能力開発、風土改革

① 人的資本投資額	単体	3年間合計 7億円
② やりがい指数 (※)	単体	77% 以上
③ キャリア採用者数	単体	3年間合計 60～80名

※社員意識調査における“仕事のやりがい肯定率”

人的資本では、社員の健康と能力開発、風土改革において

・人的資本投資額 単体 3年間合計 7億円といたします。

この中に含まれるのは純粋な教育研修費、海外見本市等の視察出張費用、新卒・キャリアの採用関連費用ですが、昨年度実績は約 1 億円となって居り、これを倍増以上とする方針です。

・やりがい指数 77%以上

・先程のキャリア採用者数 3年間合計 60～80名

定量目標（KPI） 社会価値

2025年度 目標

2. 人的資本

（2）ダイバーシティ&インクルージョンの推進

① 男性育休取得率	単体	2週間以上 100%
② 女性管理職比率	単体	25.0% 以上
③ 障がい者雇用率	単体	4.0% 以上

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

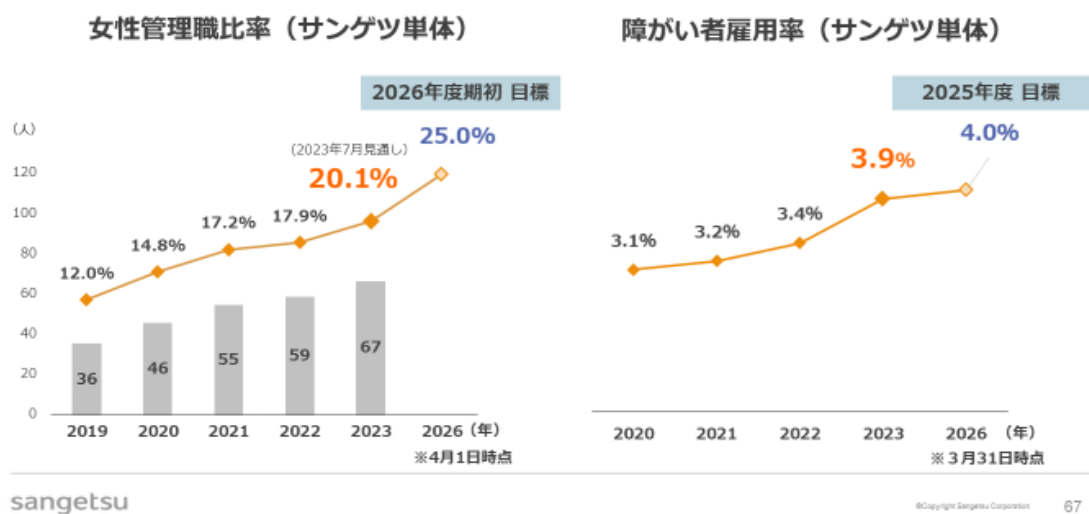
66

また、ダイバーシティ&インクルージョンの推進として

・男性育休取得率 2 週間以上 100%

男性育休取得率に関しては取締役会にても議論し、まずは期間が短くとも、該当する男性社員全員が取得する事を目指し、それと共に期間の延長を行っていきたいと考えています。

定量目標（KPI） 社会価値



- ・女性管理職比率は 2026 年度期初に 25.0%、
- ・障がい者雇用率は 2025 年度 4%を目標として進めて参ります。

定量目標（KPI） 社会価値

2025年度 目標

3. 社会資本

（1）コミュニティへの参画

① 児童養護施設改修活動	連結	50件／年間
② 外部団体への寄付を含めた社会貢献活動費	連結	年間経常利益の0.3～0.5%を目途とし、寄付は特定の団体に継続的に実施する

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

68

社会資本では、

- ・児童養護施設改修活動 50 件／年間
 - ・外部団体への寄付を含めた社会貢献活動費 年間経常利益の 0.3～0.5%を目途とし、寄付は特定の団体に継続的に実施する。
- としています。

資本政策

株主還元方針

- 2026年3月末の自己資本を 950～1,050 億円 とする
(2023年3月末 自己資本：957億円)
- 株主還元は配当を主体とし、1株当たり年間配当金は130円を
下限に、安定的な増配を目指す
- 市場の状況により自己株式の取得も検討する

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

69

そして、株主の皆さまへの還元方針であります、

・2026 年 3 月末の自己資本を 950～1,050 億円 とする

ちなみに 2023 年 3 月末の自己資本は 957 億円であります。

・株主還元は配当を主体とし、1 株当たり年間配当金は 130 円を下限
に、安定的な増配を目指す

・市場の状況により自己株式の取得も検討する
と致しております。

株主還元

第1号議案

剰余金の処分の件

期末配当：65円/株

➡ ご承認後、年間配当：105円/株（前期比 35円増配）
9期連続増配



sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

70

なお、本日の第1号議案として2022年度の期末配当を一株当たり65円とさせていただくことを御提案申しあげております。

これをご承認いただきますと、2022年度の年間配当は一株あたり、105円となり、2013年度以来連続9期の増配となります。

また、今年度の配当額を一株当たり130円として、予想の発表をさせていただいております。

新ガバナンス体制

コーポレートガバナンスの基本方針

1. 取締役会の独立性・多様性を確保する
2. 指名報酬委員会の指名に関する実効性強化、報酬内容の透明性継続
3. コンプライアンスの徹底

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

71

以上のとおり、長期ビジョンの見直し及び新中期経営計画をご説明申しあげましたが、このような計画を推進する上でのガバナンス体制についてご説明を申しあげます。

ガバナンスの基本方針としては

1. 取締役会の独立性と多様性を確保する
2. 指名報酬委員会の指名に関する実効性強化、報酬内容の透明性を継続する
3. コンプライアンスの徹底

の3点としており、

2022 年度には社外取締役を委員長とし、社外取締役 4 名及び社長の私の 5 名から成る指名報酬委員会を 16 回開催、次年度の経営執行責任者指名に関して、また、後継者候補、その育成、及び中長期的な経営幹部育成に関して、社外取締役候補の検討、

さらに報酬制度の見直し等を検討して参りました。

新ガバナンス体制 取締役候補者

第2号議案

再任			取締役 執行役員	安田 正介	代表取締役 社長執行役員
新任			取締役 執行役員	近藤 康正	執行役員 管理担当 兼 サイバーセキュリティ担当

第3号議案

再任	独立	社外	取締役 監査等委員	羽鳥 正稔	株式会社カネカ 元副社長
再任	独立	社外	取締役 監査等委員	浜田 道代	名古屋大学名誉教授 (公正取引委員会 元委員)
再任	独立	社外	取締役 監査等委員	宇田川 憲一	東ソー株式会社 元社長
再任	独立	社外	取締役 監査等委員	寺田 修	清水建設株式会社 元副社長
再任			取締役 常勤監査等委員	佐々木 修二	元 営業本部長

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

72

これらの検討の結果として、本総会の第2号議案として、私 安田正介と近藤康正を、監査等委員を除く取締役の候補者として上程させていただいております。

2名の略歴、選任理由につきましては、招集ご通知 8～10 ページをご覧ください。

また、第3号議案としてご審議いただきます、監査等委員を兼ねる取締役候補として、社外取締役の羽鳥正稔、同じく浜田道代、同じく宇田川憲一、同じく寺田修の4名、この4名に加えて、常勤監査等委員として佐々木修二の5名を候補者として上程させて戴いております。5名の略歴、選任理由につきましては、招集ご通知 11～15 ページをご参照ください。

新ガバナンス体制

監査等委員を兼ねる
取締役

5

:

執行役員を兼ねる
取締役

2

独立社外取締役

4

:

社内取締役

3

これらの候補者をご承認頂いた場合、監査等委員を兼ねる取締役と執行役員を兼務する取締役の比率は5:2、社外取締役と社内取締役の比率は4:3となります。

第4号議案

会計監査人選任

候補者：有限責任監査法人トーマツ

【選任理由】

- ・ 長期ビジョン、新中期経営計画達成に向けて、新たな視点での監査を期待
- ・ 会計監査人候補選定要領に従い、独立性、専門性、監査活動の適切性及び妥当性などを総合的に勘案

最後に第4号議案として、会計監査人選任の件を上程させていただいております。監査等委員会が有限責任監査法人トーマツを公認会計士等の候補者とした理由は、当社の長期ビジョン【DESIGN 2030】の達成に向けて2023年度から新中期経営計画をスタートするにあたり、新たな視点での監査が期待できることに加え、監査等委員会で定めた「会計監査人候補選定要領」に従い必要とされる独立性、専門性、監査活動の適切性及び妥当性、監査報酬の水準等を総合的に勘案した結果、同監査法人が、当社の会計監査が適正かつ妥当に行われることを確保する体制を備えているものと判断したためであります。

以上、私より決算概況と長期ビジョン、新中期経営計画、ならびに第1号議案から第4号議案をご説明申しあげました。

質疑応答

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

※採決の結果は、当社 WEB サイトに記載の「第 71 回株主総会決議のご通知」よりご覧ください。

第 71 回株主総会決議のご通知

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8130/announcement/89966/00.pdf>



Joy of Design

以上をもちまして、本総会を閉会いたします。
本日は誠に、ありがとうございました。